



伊丹市マスコット たみまる

2024(令和6)年5月1日 第1517号 毎月1・15日発行

広報

# 伊丹



### この号の主な内容

- 2面 市立伊丹高校グローバル共創科設置
- 3面 生ごみ減量堆肥化容器購入補助
- 4面 子育てコンシェルジュを知っていますか?
- 5面 健康 6・7面 みんなの窓

人口●195,139(-1,217) 世帯数●83,875(+275)  
 2024年4月1日推計 ( )は前年4月1日比  
 発行・伊丹市広報・シティプロモーション課 市ホームページへ

〒664-8503兵庫県伊丹市千僧1-1 Tel.072-783-1234(代表) ファクス072-784-8107(広報・シティプロモーション課) ホームページ <https://www.city.itami.lg.jp>



## 伊丹の教育が変わります

### デジタルの翼で、未来へ羽ばたけ

市は、デジタル社会の急激な進化に適応し、未来を担う子どもたちを育てるために、デジタル技術を活用した教育を積極的に推進していきます。伊丹市教育DX推進指針など詳しくは市ホームページ(二次元コードから読み取り可)から確認を。問い合わせは、市教委教育DX推進室Tel.784-8098。



## 子どもたちが自分らしく学べ デジタル社会を生き抜く力を育む スマート教育いたみ

### 伊丹の教育DXって?

子どもたちが、デジタル技術の翼を広げ、一人ひとりの才能を輝かせる環境を整備します。  
 学びの場は、教室の四角い壁を超え、オンラインの世界で新しい扉を開きます。  
 教育DXによって子どもたちの可能性は無限に広がり、新しい時代の学びが始まります。  
 ICTを活用し、「子どもの学びの充実」と「教職員などの働き方改革」を柱とした教育DXを推進します。

### 教育DXの推進

#### 子どもの学びの充実



#### 教職員などの働き方改革



#### 目指す方向性

- ◆教育の質の向上
  - デジタルならではの学習環境の充実
  - 個々のペースに合わせたオンライン学習の促進

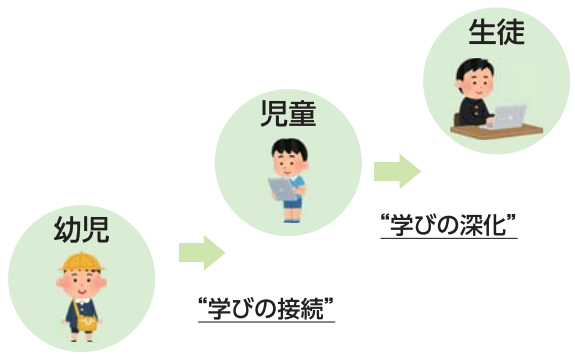
- ◆魅力ある職場環境の実現
  - いつでも、どこでも、働きやすい環境
  - 教職員などの長時間勤務を減らし、子どもたちと向き合う時間を確保

#### 取り組み例

- ◆幼児教育
  - タブレットなどを活用して、施設内でできない体験を補完(例 海の生物や宇宙の惑星などを教える)
- ◆学校教育
  - 児童生徒のタブレット活用を拡充する
  - AI学習ドリルで個別学習を促進
  - 学習eポータルでデジタルコンテンツへ簡単アクセス
  - デジタル教科書でより学びやすく
  - 電子書籍で読書をもっと身近に

- ◆幼児教育
  - 就学前施設への保育業務支援システムの拡充を検討
- ◆学校教育
  - AIを活用した業務の推進(採点補助システムの拡充)
  - 職員室以外でも仕事ができる執務環境の検討
  - 校務を効率化する次世代校務支援システムへの更新検討

幼児教育から学校教育まで



現在の子どもたちは、こうした歴史的な変革期を生き抜くことになり、デジタル技術を使いこなす力と、自ら問いを立て、答えを見出す人間ならではの創造性の発揮が求められるでしょう。一方、現在の教育現場では、教職員の長時間労働などの課題への対応も求められています。

こうした問題意識から、これまで、児童生徒1人1台のタブレット端末を整備し、デジタル教科書やAI学習ドリルなどの活用を進めてきたが、さらに今後、「子どもたちの未来を切り拓く教育DX」

社会の各方面でデジタル技術の利用が広がってきています。本市政においても、市民サービス向上と職員の業務効率化の両面で行うDX化を推進していきます。

私が特に注目しているのは、AIです。AIの能力は急速に進化しており、遠くない将来、AIが人間の知能を上回るシンギュラリティ(技術的特異点)に達するともいわれています。



### 子どもたちの未来を切り拓く教育DX

さらには今年度から、児童生徒がタブレット端末から、簡単に学習eポータルにアクセスし、デジタル教材を利用できる環境の整備や、読書がより身近なものとなる電子書籍を導入します。

加えて、幼児教育の現場で、登園・降園の管理や指導計画・記録の作成、保護者連絡などの機能を一元化した保育業務支援システムの本格運用を開始し、学校現場では、AIを活用した採点補助システムを拡充します。これらにより、教職員が子どもたちと向き合う時間を増やせることでしよう。

私は、以前より「まちづくりは人づくりから」と申し上げてきました。その人づくりの根幹をなす「教育の場」において、伊丹の全ての子どもたちが希望に満ちた未来を自ら創り出せるよう全力を尽くします。これからの伊丹の教育DXに期待してください。

子どもたちの学びの充実」と「教職員などの働き方改革」を柱とする教育DXを強力に推進していきます。今年1月にそのグランドデザインとなる「伊丹市教育DX推進指針」を策定し、4月にはこの指針を遂行する新組織を立ち上げました。

市教育DX推進指針を策定し、4月にはこの指針を遂行する新組織を立ち上げました。

(市長 藤原 保幸)